

北白石中学校



Thanks Mail 札幌市白石温水プール

職業体験に行かせてもらってありがとうございました。
印象に残っていることは、仕事の大変さです。
ずっと立って働くのは、とてもつきました。
お金を数えた、売店では、お金を使うのは責任がある
ので、大変でした。計算もピッタリあったので良
かったです。
あと、売店で、レジ・品並べ・名札をつけるのは、
本当に働いているみたいで楽しかったです。
今回学んだことは、接客に対してのあいさつの笑
顔、姿勢、相手の気持ちを考えることです。
とても良い経験になったので、今回のことを大人
になって働いたときにいかしたいなと思います。
ありがとうございました。
2年 K・T

思った以上に重労働 身近な場での様々な発見

「働くことの苦勞をしっかりと学びたい」という思いでこの日に臨んだ男女10名の生徒たちは、活気あふれるスーパーで商品の品出し作業を体験しました。バックヤードから商品を運ぶ係と、運ばれた商品を陳列する係が2～3名ずつ組になり、店内のあちこちで大量の品物と黙々と格闘しています。

食品の品出しは、賞味期限や消費期限が早いものを手前に並べるのが鉄則です。男子生徒はパッケージの日付を確かめながら「商品が賞味期限の順に並べられていたなんて知らなかった」と、「陰の手間」に驚いていました。女子生徒たちからは「棚の下段の補充は、立ったりしゃがんだりを繰り返すので重労働だとわかり

ました」という声も聞こえ、表情にはうっすらと疲れの色が表れています。また、様々な品物を扱うスーパーでは、置き場所を見つけるのも一苦勞です。補充する商品を手に「きっとこの辺りだと思うんだけど…」と、懸命に探す姿もありました。

スーパーという身近な職場を体験した10名でしたが、客の視点では見えなかった事柄をいくつも発見できたようです。また、「店員さんのさりげない気配りや笑顔での接客が印象的だった。僕がお客さんなら、絶対にまたこの店に来たくなると思った」と話す生徒もいました。今回の体験で、心地よい疲れとともに“お客様のために”という誠実さの重要性を実感できたようです。

JOY
白石店



まずはしっかり挨拶を！ コミュニケーションの大切さを再確認

札幌市白石
温水プール

顔写真入りの名札を首から下げ、少しはにかんだ笑顔を見せる男子生徒2名と女子生徒1名。白石温水プールで受付、売店スタッフ、監視員の仕事を体験します。

受付は、毎週ここに通っているという女子生徒が担当です。利用者が来たら「こんにちは」と挨拶して受付に誘導します。「挨拶をしたとき、利用者の方に『こんにちは』と返してもらえると嬉しい気分になりました。次に来るときは、今まで以上にしっかりと挨拶しようと思います」と話します。

その頃、売店担当の男子生徒は、商品の補充や整頓をしていました。「手を洗ってから陳列作業をしたり、商品が見やすいように配慮していることを初めて知りました」と、接客に至る

までの大事な心掛けを学び取っていました。

監視員に挑戦した男子生徒は、監視台の上でプールを見渡していました。「疲れた様子の人や顔色が悪い人には声をかけ、ピアスや腕時計は外すように注意を。話かけやすくなるには、最初にきちんと挨拶をすることが大事です」という職員の方の話を深くうなずき、緊張と温水プールの熱気で喉をカラカラにしながらもひたむきに取り組んでいました。

どの持ち場でも職員の方々が強調していたのは、きちんと挨拶をして利用者とのコミュニケーションをしっかりと図ることでした。生徒たちは改めて挨拶の大切さを噛みしめていたようです。



接客、調理、食器洗い 一連の仕事を通して感じた喜びと責任

びっくり
ドンキー
白石中央店

大好きな、びっくりドンキーでの職業体験に、意欲満々の男子生徒3名。まずは緑のエプロンを着けてホールスタッフの仕事を体験します。賑わう店内でお客様に水を注いだり食器を下げたり、初めての経験ながら手際よくできたようです。

お昼時が過ぎると、キッチンスタッフに挑戦です。白いユニフォームに着替え、最初はサラダの盛りつけです。お手本を見せてもらい実践しますが、野菜を規定の量にするのも、形よく崩れないように盛りつけるのも思った以上に難しい作業です。続いて、いよいよハンバーグを焼くときがきました。スタッフの方の説明に小さく頷きながら、焼いている手元を見つめる表情は、真剣そのもの。実際に

焼かせてもらい、片面に焼き目が付いたものをひっくり返す場面では、この日一番の緊張が走りました。うまく裏返しにでき、ジューッといういい音が聞こえると、やっと笑顔がこぼれました。

一連の経験をした生徒たちは「自分が作ったものが、まさかお客様に出されるとは思わなかった。緊張した！」「飲食店の仕事にとっても興味がわいた。将来は飲食業に就きたい」「ドキドキしたけど楽しかった。でも仕事は楽しいだけではなく、責任感もなくてはいけないとわかった」と、いきいきした表情で感想を話してくれました。仕事でしか得ることのできない喜びを体感し、充実した1日になったようです。



北都中学校



Thanks Mail

独立行政法人国際協力機構
札幌国際センター (JICA札幌)

11月16日の職場体験学習では、仕事の大変さと、一つ一つの仕事の大切さがとてもよくわかりました。お客さんのことをよく考えていたり、お客さんとの接し方など、色々な事を学ぶ事が出来ました。JICAさんの本来の仕事の内容を詳しくていねいに説明してくださったのでとてもわかりやすく知る事が出来て、良かったです。館内では、世界の民族衣装を見る事が出来たり、外国の方とお話をする事が出来たり、良い経験となりました。今回はお忙しい中、私達のためにお時間を作っていただき、本当にありがとうございました。今回の経験は、今後の生活に役立てていきたいです。また、将来とても大きな意味のあるものになると思います。 2年 M・O

仕事の手順や仕組み、接客の心得を教えられた1日

(有)丸高
ドライ
クリーニング

歴史ある本郷商店街の誕生にも貢献している「クリーンライン マルタカ」。それだけに、地域住民との結びつきをととても大切にしているそうです。子どもたちのでっち奉公にも理解が深く、厳しい中にも優しく思いやりのある指導をしてくれると評判の会社です。そこを訪れた女子生徒2人。「今日は、あなたたちを社員と同じように扱います。だから一生懸命仕事を覚えてください」という言葉に、表情がキリリと引き締まります。タイムカードを押してエプロンとネームを付け、開店前の掃除を終えると、手初めに接客の心得を教わりました。

「仕事の基本はまず挨拶から。対

応はいつも笑顔でね」と言われ、うなずく2人。ちょっと照れながらも、来店した常連客に明るく挨拶します。注文を受けるときはもちろん、仕上がった洗濯物をお客様に渡すときも絶対に間違いがないように、何重にもチェックします。「ここで生まれた信頼関係が、お客様との長いおつきあいにつながっている」と気付いたようです。

この日は自分たちが持ち込んだ制服が、プロの手でどのように仕上がるのかを確認し、料金体系を学び、銀行へ行って両替も体験しました。忙しい1日でしたが、その経験や知識は社会に出てからきっと役に立つことでしょう。



日本と開発途上国の人たちを結ぶ 国際拠点で、貴重な就業体験

独立行政法人
国際協力機構
札幌国際センター
(JICA札幌)

JICA札幌は、開発途上国の研修員たちが日本の高い技術や様々な知識を習得するために来たときに、彼らを受け入れるために作られた国際交流拠点です。それだけに、館内にはアフリカ、中央アジア、ロシアなど世界各国の研修員が出入りしていて、じつにインターナショナルです。ここを職場体験に選んだ生徒10名も、「本当にいろんな国の人たちがいるんですね。肌の色や言葉もみんな違う!」と、驚いていました。

ここで生徒たちは3つのグループに分かれて、フロント業務・宿泊部屋の清掃・レストランの手伝いをローテーションでこなしました。レストランやフロントは、外国の方との会話が必須。研修員の方々は、日本語が

話せる人も、話せない人もいます。そのため、生徒たちは慣れない英語を使い、身振り手振りも加えてしどろもどろになりながらコミュニケーションを図ります。「話しかけられてドキドキした」という生徒もいました。

室内清掃はそんな苦勞がない代わりに、部屋数が100室近くあるため、大忙しです。「いつもは自分の部屋も親にやってもらう」という男子生徒も、ふうふう言いながらお風呂掃除や拭き掃除に汗を流していました。

この日、身振り手振りで外国の方とコミュニケーションができたうれしさや、日本と国際社会のことも少し学べたことは、きっといい勉強になったに違いありません。



見たこともない機械に目を白黒。 自分の名刺を作ってもらってニッコリ

(株)正文舎

ガシャーン、シュルル、ガシャーン、シュルル…。工場内に響く大きな機械音と、紙やインクの匂いが立ち込める印刷会社「正文舎」を訪れたのは、「製造業に興味があったから」と話す男子生徒2人。足を踏み入れた途端、「見たこともない機械ばかり!」「ものすごいスピードで、みるみる印刷されていくよ!」と、驚くことばかりです。それもそのはず。この工場には、印刷前のデジタルデータを出力する機械と大きな印刷機が2台、断裁・折り・製本までがフル自動化になった大型機械まで揃っていました。

いま印刷工程の大部分は機械任せですが、インクの補充や紙の詰まり・ズレ・引っかかり、仕上がりなどを

チェックするのは、やはり人間の目と経験が頼りです。2人は社員の方のチェックや作業工程に興味深く観察しながら、出力機の操作盤を触らせてもらい、実際に印刷機へインクを補充しました。最後に、納品する印刷物の紐掛けまで体験させてもらった2人は、「まるで職人さんになった気分」「カラー印刷が4色でできているなんて知らなかった」と口々に話します。また、でっち奉公の記念に「人生初」という名刺とハガキを印刷してもらい、とてもうれしそうにしていました。



柏丘中学校



Thanks Mail

(株)白石ゴム製作所

この度はお忙しい中、職場訪問をさせていただき、ありがとうございました。今回の体験を通して、色々なことを学びました。小林さんのお話では、「働く」というのはどういうことなのか、考えさせられました。自分のためだけにじゃなくて、誰かのために何かをやりとげるのは、とてもすごいと思います。良いお話を、ありがとうございました。作業の方では、指示されたことを正確に行わなければいけないので緊張しました。自分が作った物が誰かに届くと思うと、達成感がわきました。これが「働く」ということなんだなあ、と少し分かった気がします。どれも初体験のことばかりで、とてもめになりました。一つの目標に向かって努力をする、ということを忘れずにこれからも生活していきたいです。まだ将来の夢は決まっていらないのですが、その仕事に責任をもって最後までやりとげられるようにがんばりたいと思います。

2年 Y・N

科学好きな少年・少女のために、みんなで作った工作パーツ

札幌市
青少年科学館

楽しんでいるうちに自然に科学が学べる、札幌市青少年科学館。テーマは「見て・触れて・考える」です。昭和57年のオープンから30年、親子2代にわたって訪れる人も少なくないそうです。ここに、でっち奉公にやって来たのは、「科学はおもしろいから大好き!」と明るく話す男子生徒5人組。その日はプラネタリウムの機械点検日だったので、ちょっぴり残念そうでした。でも、小学校低学年の子どもたちを対象にした『冬休み工作キット』づくりの真っ最中だったので、みんなでそのパーツ作りをお手伝いしました。工作キットは『クマの綱渡り』と『南窓の星空』の2種類。電池もゴムも使わないのに、ちゃんと

動くから不思議です。「小さな子どもたちが、これを組み立てる姿が想像できます」と、5人は黙々と手を動かしていました。

午後からは、訪れた子どもたちの前で『浮沈子（ふちんし=ボトルをギュッと握ると中の浮きが沈み、手を離すとまた浮かんでくる楽しいおもちゃ）』の説明も披露しました。ここは科学のテーマ館なので一見華やかに思えますが、受付や解説をするわずかのスタッフを除けば、残りの40名近くは裏方の職員さんです。その仕事の地道な苦勞を少し理解した5人でした。



表側からではわからない、エサと水の管理の難しさを学習

サンピアザ
水族館

市内で唯一の都市型水族館である、サンピアザ水族館。交通の便も良く、気軽に利用できることから、とくに小さな子どもや家族連れに根強い人気です。ここを就労体験先に選んだのは、「年に何度かは必ず来ます」という、男子生徒4名。この水族館には約200種・1万匹の海の生物がいて、その管理や飼育はとても大変です。それを知るために4人はまず、スタッフの方と一緒に水族館の裏側に入らせてもらいました。

最初に見せてもらったのは「エサ場」と呼ばれる大きな台所です。アザラシのような大型の生物や巨大魚もたくさんいるので、1日に作るエサの量も半端ではありません。そして

最も気を遣うのが水の管理。水が汚れたら、もちろん取り替える必要ありませんし、酸素だって必要です。海水魚と淡水魚がいれば、寒流や暖流の魚もいます。そういった魚の生態に合わせて、エサと住む環境を整えてやるのがいかに難しいかを説明され、生徒たちは認識を新たにしました。

実際に体験した作業はペンギン水槽の掃除や、エサづくり、魚のサーカスショーなどのお手伝いでしたが、「いかに大変か分かりました」とのこと。最後は「これからは、裏方さんの苦勞を思いながら水族館に来ます」と締めくくってくれました。



ゼロからモノを作り出すことの苦勞と難しさを実感

(株)白石ゴム製作所

工業用ゴム製品の製作や加工で、高い技術を誇る白石ゴム製作所。受注するのは、大量生産できないオーダー品がほとんどだそうです。そこを訪れたのは、「製品が生まれていく過程をしっかりと学んでみたい」と張り切る5人の中学生です。その中には「製造する技術に興味があった」と笑顔で話す、女子生徒も2名います。

工場内にある機械や刃物はどうしても危険を伴うため、初めに安全講習をしっかりと受けてから作業に取りかかります。まず、廃材のゴムで型抜き作業の練習をしてから、いよいよ本格的にスタートです。5人はそれぞれ、型抜きのプレス機を使う係、木型を当ててカッターで切り出す係を交

代で体験しました。初めは緊張して「難しい」と手こずっていた生徒も、次第にコツをつかんでいったようです。その仕上がりを社員の方に見てもらったところ、「とても今日だけで覚えたとは思えません」と言われ、とってもうれしそう。「何もなかったところからモノを作り出すって、すごいことなんですね」と、改めてモノ作りの苦勞と楽しさを実感しました。それと同時に、ゴム製品が意外なほどたくさんの方々の場所で役立っていることを知り、とても有意義な時間が過ごせたようです。

